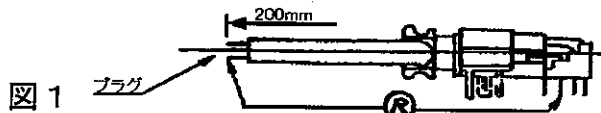
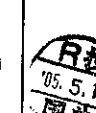


△の数	訂正記事	担当	検図	年月日	△の数	訂正記事	担当	検図	年月日
△					△				
△					△				
適用規格									
定 格	使用温度範囲	-15℃ ~ +60℃			保存温度範囲	-15℃ ~ +60℃			
	電 圧	AC 100 V , DC 140 V							
	電 流	2A			適合ケーブル				
性 能									
	項 目	試 験 方 法			規 格			QT	AT
構 造	外観、構造及び仕上げ	目視、寸法測定器にて測定する。			図面と合致していること。			○	○
	表示	目視にて確認する。						○	○
電 氣 的 性 能	接触抵抗 ⁽¹⁾	単位コネクタをDC 1 A で測定する。			92 mΩ以下			○	○
		7-スコネクタを DC 1 A で測定する。			66 mΩ以下			○	○
耐 電 圧	絶縁抵抗	DC 250 Vで測定する。			200 MΩ以上			○	○
	耐電圧	AC 300 Vの電圧を1分間印加する。			せん絡・絶縁破壊がないこと。			○	○
機 械 的 性 能	コネクタの挿抜力	φ0.53±0.003 の鋼製ピンで測定する。			挿抜力 0.2 N以上			○	—
	コネクタの挿抜力	適合コネクタで測定する。(ロック機構を含む)			挿抜力 5 ~ 50 N			○	—
性 能	繰り返し動作	1000 回の抜き差しを行う。			単位コネクタの接触抵抗:102mΩ以下 7-スコネクタの接触抵抗 :86mΩ以下			○	—
	耐振性	周波数 10~ 55 Hz, 振幅 0.75mm, 加速度 — m/s ² で2時間×3方向試験する。			①10 μs以上の電氣的瞬断がないこと。 ②破損、ひび、部品のゆるみがないこと。			○	—
耐 衝 撃 性	耐衝撃性	加速度490m/s ² , 持続時間 11ms, 正弦半波3方向各3回試験する。			①10 μs以上の電氣的瞬断がないこと。 ②破損、ひび、部品のゆるみがないこと。			○	—
	環境	温度サイクル	温度 -15℃ → 常温 → +60℃ → 常温 時間 30 → 10~15 → 30 → 10~15 分 を5サイクル試験する。			①絶縁抵抗:200MΩ以上 ②破損、ひび、部品のゆるみがないこと。			○
能	定常状態の耐湿性	温度 40 ℃, 湿度90~95 %中に96時間 放置する。			①絶縁抵抗: 2 MΩ以上(高湿時) ②絶縁抵抗:20 MΩ以上(乾燥時) ③破損、ひび、部品のゆるみがないこと			○	—
	塩水噴霧	濃度 5%の塩水, 48時間放置する。			はなはだしい腐食がないこと。			○	—
耐 熱 性	耐熱性	温度 +60℃中に96時間放置する。			破損、ひび、部品のゆるみがないこと。			○	—
	耐寒性	温度 -15℃中に96時間放置する。			破損、ひび、部品のゆるみがないこと。			○	—
はんだ付け性	はんだ付け性 (はんだ槽法)	はんだ温度: 245±3℃ にてはんだ付けを行う。			はんだ付け表面は、ピンホール、ぬれなし はんだはじきなどの欠点のないこと。			○	—
	はんだ耐熱性 ⁽²⁾ (はんだ槽法)	はんだ温度 260℃±10℃, 浸せき時間5秒間 で試験する。			外観に機能を損なう変形及び著しいがたがないこと。			○	—
はんだ付け性	はんだ付け性 (はんだこて法)	はんだこてをこて先温度350℃±10℃で 3秒間のはんだ付けを行う。			はんだ付け表面は、ピンホール、ぬれなし はんだはじきなどの欠点のないこと。			○	—
	はんだ耐熱性 (はんだこて法)	はんだこてをこて先温度380℃±10℃ で3秒間ディップホット部へ当てる。			外観に機能を損なう変形及び著しいがたがないこと。			○	—
									
備考(1) 接触抵抗の測定条件は図1による。但し、フラグ側のケーブル芯線は、AWG#28とする。 (2) はんだ耐熱性は、コネクタに厚さ1.6mmの基板を取り付けた状態で試験する 試験規格の記載のない試験方法はJIS C 5402を適用している。					製 図	設 計	検 図	承 認	出 図
									
注 QT: 確認試験 AT: 製品検査 ○: 適用項目									
HRS ヒロセ電機株式会社 HIROSE ELECTRIC CO., LTD.					製品規格表			製品名 HR12-10RC-10SDL (73)	
旧CL CL		図番 SLC4-026629-73			製品コード CL112-0511-8-73			1 1	